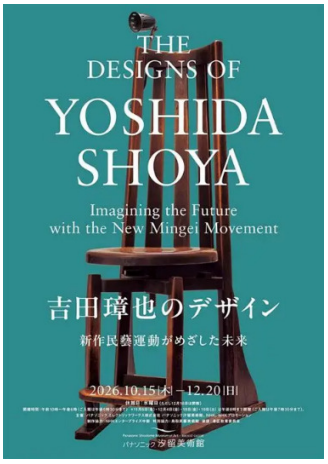
◎ 美術館情報

最新の情報は、各施設の公式ホームページなどでご確認ください。

1. パナソニック汐留美術館 【東京・港区】（https://www.museum.or.jp/event/124708）



10 月 15 日（木）～12 月 20 日（日）

吉田璋也のデザイン－新作民藝運動がめざした未来

吉田璋也（1898～1972）は医師でありながら、陶芸・木工・染織・金工などの分野で新しい民藝を自らデザインし、“民藝のプロデューサー”として民藝運動に生涯を捧げました。生産・流通・販売体制の確立から、作品の蒐集、鳥取民藝美術館の開設、鳥取砂丘など地元の自然や文化財の保護まで、吉田璋也が多岐にわたって展開した「新作民藝運動」の軌跡を、関連する作品や資料総計約 300 点により紹介します。

2. 公益財団法人 横山美術館 【愛知・名古屋】（https://www.yokoyama-art-museum.or.jp/event/）

10 月 23 日（金）～2027 年 3 月 22 日（月・祝）

優美なるオールドノリタケ×ノリタケ



150 年前の明治 9 年(1876)、兄弟は東京・銀座で貿易事業を始め、慶應義塾で英語をマスターした弟がアメリカへ旅立ちました。兄は森村市左衛門(市太郎)、弟は豊。貿易商社の森村組の設立と、ニューヨークの販売店・モリムラブラザーズにつながる出帆です。その事業は必ずしも順風満帆ではありませんでしたが、兄は日本中を奔走して弟の求める商品を仕入れ、弟はニューヨークの店舗を切り盛りして奮闘します。次第に、扱う雑貨や工芸品のうちで売れ行きの良い陶磁器に重点を置くこととなり、絵付や製陶を行う大企業へと発展したのです。持ち前の行動力と、福澤諭吉の教えによる先見性をルーツにもつ、欧米で愛されたブランド「ノリタケ」の優美な世界を、当館所蔵品でご堪能ください。

＊都合により、展示品は変更になることがあります。

3. 岐阜県現代陶芸美術館 【岐阜・多治見】（https://www.cpm-gifu.jp/museum/events/event/event-11526）

10 月 24 日（土）～2027 年 1 月 17 日（日）

特別展　セラミックス・ジャパン　戦後日本の陶磁デザイン



戦後日本の陶磁器産業は、戦前から培われてきた技術革新やデザイン研究を基盤に、復興期を経て、1950～60 年代に大きく発展しました。本展では、戦後直後に始まった実験的な試みを起点に、社会や生活文化の変化とともに展開した、戦後日本の陶磁デザインの流れを概観します。各地の試験場では、素材や成形技術の研究に加え、新しい生活に対応した製品やデザインの開発が進められました。また、海外のデザインや、来日した外国人専門家からの刺激も加わり、戦後の暮らしに寄り添う多様な陶磁デザインが生み出されていきます。高度経済成長期には、住まいの洋風化や LDK 型の住居の普及など、暮らしのあり方が大きく変化しました。それにともない、陶磁器にも新たな需要が生まれ、さまざまなデザインの提案が試みられます。主要産地やメーカーにおけるデザインや技術革新の動向、さらに 1990 年代以降に広がった手仕事やクラフトへの関心など、時代ごとの潮流にも目を向けながら、現在へと続く日本の多様な陶磁デザインの展開を紹介します。